

教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県普代村

震災後の地域の状況・仮設住宅数

中心市街地は被災を免れた。被災を機に地域とのかかわりが重要となったことから、地域活性化コミュニティ再生支援事業に5者一丸となって取り組んでいる。

～普代村教育振興運動地域活性化研修会(体験プログラム)～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
		○		県北教育事務所
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
			1	黒崎キャンプ場、明戸マレットゴルフ場

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
		○			()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
		○			()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○				()

普代村教育振興運動実践班では小学校の夏休み中である8月18日(月)に村内の児童の健全育成、世代間交流を図ることを目的に、黒崎キャンプ場で普代村教育振興運動地域活性化研修会を開催した。具体的な内容は、親子による「体験活動1 読み聞かせ学習会」、「体験活動2 マレットゴルフ体験」の2つの体験活動を柱とした。

普代村図書室より絵本カーで多数の本を持ってきてもらい、野外で親子、友達、地域の方々と読み聞かせ体験を行った。親や大人が子どもに対して読み聞かせを行うだけでなく、子ども同士や子どもが大人に読み聞かせをする場面を設定するなど、多くの人とのふれあいを可能にする内容とした。

昼食には子どもが中心となってカレーライスを作り参加者全員で味わった。

マレットゴルフは地域ボランティアを募り、指導していただいた。体験1, 2ともに大好評で、保護者から「家庭でも読み聞かせをやってみたい」、子どもから「地域の方にマレットゴルフのコツを教えてもらったらうまかった。さすがだなと思った。」といった感想が寄せられた。

参加者の笑顔が多く見られるとともににぎやかな声が響き渡った一日であった。



取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

市街地に大きな被害はなかったものの、被災前より村全体で過疎化、少子化が急速に進むと同時に、地域コミュニティが衰退しつつある。

また、保護者が近隣市町村に通勤している家庭や、自宅が集落から離れている家庭も多く、親子のふれあいや子どもと大人、子供同士のかかわりが少なくなっているとともに、子どもの体験活動の機会も失われがちである。

◇住民等からの要望・必要な取組

少子化や学校の統合により、地域で児童・生徒の姿が見えなくなり寂しい、地域づくりが停滞してしまっているという声が聞かれる。親子のふれあい、世代間交流は地域コミュニティ形成に欠かせないものであり、それらの大切さや楽しさを感じられるような事業を展開することが必要と思われる。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・村内実践班組織関係者…地域住民への事業周知、当日の運営補助
- ・行政関係者(教育委員会、村図書室)…各団体・組織との連絡調整、図書や物品等の事前準備、当日の運営
- ・村内小・中学校…各家庭・児童生徒への事業周知
- ・県北教育事務所…当日の講師、運営補助

◇取組の充実や課題解決のための工夫

保護者・地域の方を対象とした研修会等を開催することで、今まで以上に地域を巻き込んだ活動となるよう周知の方法にも工夫が必要である。また、日常生活における親子のふれあいや世代間交流につながるものとして読み聞かせとニュースポーツ(マレットゴルフ)を内容に取り入れた。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

これまで教育振興運動に取り組む中で、各地域での事業開催や役割の明確化などにより、地域の教育力向上や住民同士の結びつき等の成果をあげてきた。

昨年度から実施している本取組では、小中学生、高校生、保護者、地域住民、行政職員などさまざまな世代、立場の人が参加できるように内容を工夫してきた。その結果、予想を上回る多くの参加者があり、世代間交流の推進が図られてきた。世代間交流を通して地域の結びつきを強めることは復興や防災に大きくかかわるものであり、本取組の成果と言える。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

本取組を実施した2年間共幅広い世代や立場から予想を上回る参加者があった。これまでの取組による成果に記述したように世代間交流を促進し、地域の結びつきを強めることは復興・防災につながるものであると考える。

平成25年度 防災体験参加者…小学生18名、中・高校生5名、実践区17名、町職員10名 計50名参加
平成26年度 読み聞かせ・ニュースポーツ体験…小学生32名、保護者・地域住民15名、町職員6名

計53名参加

◇課題や今後の展望

今年度は平日開催であったため、新学期が始まっていた中高生が参加できなかった。より多くの方が参加できるよう開催期日を工夫したい。また、本取組を生かし、各地域においても結びつきをより強くするような体験活動や事業を展開していけるような働きかけをしていく。